

「シドニー大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学医学部人間健康科学科 1年 渡辺 真理子

①
今回このプログラムへ参加して、私は初めて海外の大学で勉強するということを経験しました。その中で感じたのは、まず一つ目は、シドニー大学は本当にいろんなバックグラウンドを持った生徒がたくさんいるということです。オーストラリアは多文化社会ということで移民を積極的に受け入れているということもあってのことだとは思いますが、それでもやはり様々な人種の生徒が様々な言語を用いて大学生活を送っている様子は、京都大学ではほとんど見るのできない光景であり、同時にとても新鮮な光景でした。日本にいと留学することに対してハードルが高いイメージがありましたが、シドニー大学に来てみて、留学することへのハードルが下がったとともに、可能であればぜひしたいと思いました。とはいえ、私の医学部人間健康科学科では交換留学のような制度は整っておらず、留学するとなると卒業に5年以上かかってしまうのが現状です。そのため、もう少し医学や薬学など医療系の学部でも国際化に関するカリキュラム体制が整ってほしいと思いました。

また、シドニー大学での授業は、やはり全体的にリーディングなどよりもディスカッションやグループワークが多く、積極性が求められるような内容ばかりで流石だと思いました。普段の京都大学の英語の授業では、リーディングやライティングがほとんどで、なかなかスピーキング能力や積極性を鍛えることは出来ません。そういう点においてシドニー大学の授業は優れており、京都大学にも取り入れてほしいと強く思いました。

②
シドニーで2週間過ごして感じたことは様々ありましたが特に2点について印象に残っています。一つ目は、とても健康的な街だと感じた、ということです。シドニーでは、街の至る所に公園や庭園があり、町中が緑で溢れていました。また、シドニーの人たちの多くはスニーカーを履いており、他にも街の中をランニングしたり、公園でストレッチしたりしている人たちがとても多く見受けられました。町全体が爽やかで、健康的だと感じました。二つ目は、①でも述べたように本当に多文化社会だと感じた、ということです。シドニーの町の中には、チャイナタウンやコリアンタウン、タイタウンなど特定の国の人たちが集まるエリアが点在しており、また、そのような場所だけでなく、様々な人種の人たちが街を行き交い、様々な言語が飛び交い、とても不思議な雰囲気形成されていました。食文化に関しても、「オーストラリア料理」というものはあまりなく、世界中の食べ物が集まっているという印象を受けました。バックグラウンドが違えば、言語や生活習慣、宗教など様々な問題が生じる可能性もありますが、オーストラリアでは絶妙なバランスで多文化社会が成り立っていて、個人的に非常に驚くとともに、2週間ではその秘訣までは見つけることができなかつたものの、異文化を受容するという点において他国に対して見本となっていくべき街だと感じました。

③
プログラム内容に関しては、今回の SEND プログラムのメインでもあった「文化交流」が一番印象に残っています。オーストラリアの文化に関しては、英語の授業の中で英会話の勉強をしながら、オーストラリアの歴史やアボリジニの文化について楽しく学ぶことができました。特にムービーを見たり、実際にオーストラリアの伝統的な食べ物を食べさせてもらったりなど、楽しく学習を進めるための工夫が凝らされていたのが印象的でした。また、日本文化の発信に関しては、出国前からグループで話し合い、準備を進めていく中で私自身も改めて日本の文化に向き合うことができ、世界に対して自慢できる日本の良いところも見出していくことができました。また、実際にシドニー大学の生徒に対して発表した時は、最初は伝わるか不安もありましたが、多くの生徒が興味深そうに話を聞いてくれて、プレゼン後も日本のことに関して盛り上がり話をするのができてとてもうれしかったです。外国の人が日本に対して興味を持ってきて、日本語も学んでくれているというのは、一人の日本人としてとてもうれしく感じ、来てくれた現地の生徒の人たちは初対面の人たちばかりだったけれど、強い親近感を抱きました。そのため、同じように私も外国に興味を持ったり、外国語を学んだりすることで、外国の人たちと打ち解けることがより容易になるのではないかと感じました。異文化理解とは決して簡単なことではないけれど、まずは相手の異文化に対して興味を持ち、勉強したり体験したりなど、私たちから歩み寄っていくことが、異文化の人と理解を深める近道なのだろうと強く感じました。

④
進路への影響としては、直接的進路ではないものの、もっと英語を勉強したいと思いました。今回シドニーで2週間過ごしてみて、日本人同士では通じる英語も、ネイティブの人を相手にすると全く通じなかつたりして驚くことがたくさんありました。世界の人とコミュニケーションをとるためには、発音や言い回しなど、今以上に自分の英語を向上させていかないといけないと強く感じました。